



平成 26 年度 評価結果
(エネルギーキャリア部分抜粋版)

平成 27 年 4 月 16 日

総合科学技術・イノベーション会議

戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) ガバニングボード

■ エネルギーキャリア

1. 意義の重要性、SIPの制度の目的との整合性

(1.6点)

肯定的な評価としては、社会的ニーズが大きく成果が期待される、産業競争力の強化のみならず世界的な課題の解決にも資する重要な課題である、との指摘があった。

2. 目標（特にアウトカム目標）の妥当性、目標達成に向けた工程表の達成度合い

(1.4点)

肯定的な評価としては、ほぼ順調に進捗しており、目標も具体的に分かりやすく設定されている、出口戦略を見据えてテーマの再編を行っている点は評価できる、との指摘があった。

3. 適切な体制構築/マネジメントがなされているか。特に府省連携の効果がどのように発揮されているか (1.5点)

肯定的な評価としては、課題の変更、中断についてリーダーシップを発揮できる体制が築かれつつある、合理的なマネジメント体制が確立されている、効率的に事業運営がなされている、との指摘があった。

改善すべき点としては、テーマの統廃合によって全体の体制がどのように変わったのかを示すべき、との指摘があった。

4. 実用化・事業化への戦略性、達成度合い (1.4点)

肯定的な評価としては、当初の計画を超えた成果が得られていると評価できる、との指摘があった。

改善すべき点としては、

- ・ 今後地域振興と世界市場に向けた戦略と工夫を期待する、
- ・ 水素技術に基づくキラーコンテンツを市場に提供できる道筋を一步一步つけていくべき、
- ・ ガラパゴス化しないようグローバル普及と知財保護のバランスに注意すべき、
- ・ エネルギーは安定供給、低コストと並んで環境への影響も非常に重要であるため、単純なコスト比較ではなく、国外に

流出するコストとしないコストという視点からも良く見る必要があるとの指摘があった。

5. その他特記事項

改善すべき点としては、地方自治体を巻き込んでいけるような国産再生可能エネルギー起源の小型・分散型水素キャリアシステムにより力を入れるべき、対外的にオープンにする必要はないが知的財産のオープン・クローズ戦略を明らかにしておく必要がある、との指摘があった。

6. 平成27年度計画

肯定的な評価としては、安全性評価研究の推進に期待するとの指摘があった。

改善すべき点としては、特許は当然外国出願も視野に入っていると思うがその旨を明示すべきとの指摘があった。

7. 総合評価（A）

肯定的な評価としては、PD、サブPD、各省庁、産官学の役割分担は明確である、戦略策定WGにおいて統合的に各テーマを推進している、テーマの加速、統廃合などもスピーディに実施されており、現実的な技術開発体制が組み立てられていると判断できるとともに、中間的自己点検の成果がみられる、との指摘があった。

改善すべき点としては、オリンピック・パラリンピックに向けた規制改革や国際標準化活動の強化が必要、開始直後で中断したテーマについて、採択時の計画・目標の整合性と中断後の取り扱いを説明いただきたい、との指摘があった。